

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	農業環境の改善により住民の食糧保全及び生活の安定を計る。
(2) 事業内容	<p>11月から3月までの主な活動は以下の通り</p> <p>11月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題分析トレーニング(第2期新規事業地2村ー以下「新規2村」)ー村の環境問題の分析 ・経過分析(第1期事業地3村)ー事業1年目の成果を共有し、2年目は村のモデル農民を中心に計画される事、養鶏、養魚を実施した者は近隣への指導を担当する事、新規2カ村との連携を行う事などを確認。 ・地図作成と種ライブラリーフォローアップ(第1期事業地3村)ーファイコン村では昨年完成させた地図を使って保護林を確認。ソプラン村では地図が未完成であることから、ライ(焼畑輪作地)の耕作年ごとの色分けができるよう指導。種データの確認。 <p>12月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーヒー機械設置と使用トレーニング(ファイコン村)ーコーヒーの果肉むき機とあま皮むき機を購入し、ファイコン村に設置。村人から果実を有償で預かり殻付きの豆(Gala)にする機械作業のトレーニングを実施。 <p>1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題分析トレーニング(新規2村)ー村の森林資源や水源確保などの問題の分析から、その解決に向けた統合農法の意義について講義。 ・クロスビジットー実施日:1月26日~27日、メーホーソン県バンファイホーム村を訪問、参加者は5村合計22名。訪問先は先駆的な統合農法の村で、1992年から有志らによって始められた活動により、単一換金作物から多品種統合農法への転換に成功した。この訪問により参加者は統合農法の有効性について学び、大いにモチベーションを高めた。 ・統合農法トレーニング(新規2村)ー年間を通じて安定的に食の保全を図る統合農法の詳細を村人に分かりやすく解説した。 <p>2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル農民の決定ーモデル農民候補者はファイコン6人、ソプラン6人、ピトゥキ5人、ファイトーンルアン5人、メーランノイ6人の合計28人となった。モデル農民の条件は、村人の総意で選出される事、土地利用、特に換金作物地を統合農法に変換するなどの明確な計画がある事、さらには村の指導者としての役割を担う意識が高い事である。モデル農民には農業用小型チェックダムと水道管を支援することによって、統合農法用水が確保され、乾季の農業活動が可能になる。 ・モデル農民トレーニングー各村のモデル農民の農地のサーベイとそれぞれが持つ統合農法に関する知識交流を行った。また農地へ引水するための小型のチェックダムと水道パイプ設置方法トレーニングを実施した。 ・婦人会トレーニング(第1期事業地3村と新規2村)ーホームガーデン(菜園)と村の伝統野菜の種採取について活動計画を練る。 <p>3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種ライブラリートレーニング(第1期事業地3村)ー村の伝統品種をどのように保存していくべきかをワークショップ形式でディスカッションを実施。日を変

	<p>えて、モデル農民たちから伝統品種に関する知識を聞き取りし、種データの作成に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種ライブラリートレーニング(新規2村)－データベースのひな型を作成。 ・チェックダム(小型堰)作り OJT－村水源地保全チェックダムはファイコン2、ソプラン14、ピトゥキ4、メーランノイ2、フアイトーンルアン3で合計25箇所に設置した。乾季には地上の水流が枯れて地下水のみとなる場所ではセメントを捏ねる水がなく、また地形の急峻な場所では砂袋を運びあげるのが困難なため、袋にセメントと土を混ぜて積み上げる土嚢工法のOJTを採用した。 ・統合農法&ファシリテートトレーニング(5村合同)－統合農法と生態系保全との関連についてワークショップを行い、具体的な統合農法の活動計画を策定した。またこの場を利用してモデル農民が自分の土地利用状況とその方法を図に示して発表するというセッションを持った。 ・地図トレーニング(新規2村)－村の水路地図を描き、村全体の地図へ生かしていく計画を立てた。
(3)達成された効果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各村で、今後統合農法の普及を図るための指導者となるべき「モデル農民」の候補者が5村合計で28名確定し、目標の20名を上回った。 2. チェックダムは村人、ユース、婦人グループなどが共同で作業を行い、当初の予定の22堰を上回る25堰が設置された。 3. コーヒーの実を豆に加工するための設備を導入して、付加価値をつけて販売するプロジェクトをファイコン村で開始した。今期集められたコーヒーの実は約900kgで、予測量2tの約半分という結果だったが、皮むき機の導入により皮をむいて殻付きの豆(Gala)にした状態での販売価格は125バーツ/kgで、予想販売額・70バーツの約1.8倍であった。結果として実のまま販売した場合の価格・13,500バーツ/900kgに対して皮をむいたことにより22,000バーツ/900kgで販売でき、全体で約8,500バーツの増収となった。
(4)今後の見通し	<ol style="list-style-type: none"> 1. モデル農民に対しては、統合農法普及の担い手として指導力を発揮していけるよう、技術支援、ファシリテート・トレーニングを継続して行う。これにより、彼らを持つ知識と技術がそれぞれの村に普及していくことが期待される。また、5村合同トレーニングで各村の交流が深まったことにより、モデル農民ネットワークが形成される事が期待できる。 2. 養鶏・養魚トレーニングは第1期事業地においてはほぼ定着し、ひなや稚魚も次々に生まれて少なくとも倍以上に増えているという報告を受けている。後半に実施するトレーニングの開始とともに、これまで養鶏・養魚を実施してきた者は近隣への指導とひな・養魚の配布を担当する。これにより第1期事業地(ファイコン、ピトゥキ、ソプラン)では新たに合計60世帯が養鶏・養魚に参加でき、たんぱく質の補給による栄養改善が見込まれる。 3. 第1期事業地の婦人会活動は、組織としての機能が確立しつつある。統合農法トレーニングとの連携で、養鶏とホームガーデン(菜園)作りをグループとして実施していく予定である。 4. 雨季の訪れを待って、コーヒー、果樹の栽培指導を行い、アグロフォレスト活動の充実を図る。